



発行所 © 紀伊民報社  
和歌山県田辺市秋津町  
100番地 〒646-8660  
電話：0739 (22) 7171 (代)  
営業FAX：0739 (26) 0077  
編集FAX：0739 (25) 3094  
振替口座：00930-2-21977

和歌山支局  
電話 073 (428) 7171  
串本支局  
電話 0735 (62) 7171  
新宮通信部  
電話 0735 (31) 7174

# 診察室の午後

白浜はまゆう病院 泌尿器科部長 川嶋 秀紀

わゆる本地垂迹説(ほんじすいじゃくせつ)に基づいており、インドに起源を持たない日本独特のお姿である。私は、仏教の真理をこのよつなお姿で具象化していると勝手に理解している。

今の病院に赴任するまで散った。幽玄な世界に浸りながら下ると、道にある医学部で研究に明け暮れていた。毎年、桜の季節の近鉄阿部野橋駅には、

秘仏本尊特別公開期間であったので、蔵王権現さまの真ん前で懺悔(ざんげ)をするようにとの案内であった。そういえば東大寺の「お水取り」で有名な修二会でも十一面観世音菩薩の前で懺悔し許しを請う。春は懺悔が多いようだ。

吉野に花見に出掛ける多くの人がいた。改札の向こうでは特急が待っていた。山の華やきが伝わってきた。季節感に心躍らせながら、山一面

「お水取り」で有名な修二会でも十一面観世音菩薩の前で懺悔し許しを請う。春は懺悔が多いようだ。キリスト教には、四旬節(レント)と

## <54> 「吉野の桜」

に咲き誇る桜とはどんなものだろうと想

いう、節制、祈り、懺悔の期間がある。

像するだけであった。

懐かし、見る者を圧倒する建造物であった。お顔やお体が青く塗られた本尊

「灰の水曜日」と呼ばれる日から四旬節は始まる。四旬節が明けると、春のお祭

意を決して、世界遺産となった紀伊山地の霊場の一つである吉野山を、妻と訪ねた。ケーブルカーには乗らずに「上干本」と呼ばれる山の上まで歩いた。そこが、源の三つとする修験道の総本山「中干本」へと下った。4月の空は霞み、谷から吹き上げる風に桜吹雪が舞った。風がなぐと、ピンク色の花弁が静かに、はらはら

「灰の水曜日」と呼ばれる日、懺悔のお参りを終えてお寺から出れば、そこはまた桜祭りである。春は、聖と俗が織りなす美しくも不思議な季節だ。「生」を享受する知恵なのだ。